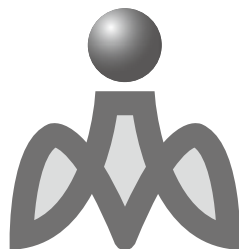


山 梨 県

商工会地区

中小企業景況調査報告書

〔平成24年4月～6月実績〕
〔平成24年7月～9月予測〕



未来に敏感、人が中心

山梨県商工会連合会

目 次

I 調 査 要 領	1
II 景 況	
1. 産業全体の業況概観	2
2. 製造業の動向	
(1) 景 況 概 観	3
(2) 主な項目でみる業況	3
3. 建設業の動向	
(1) 景 況 概 観	6
(2) 主な項目でみる業況	6
4. 小売業の動向	
(1) 景 況 概 観	9
(2) 主な項目でみる業況	9
5. サービス業の動向	
(1) 景 況 概 観	12
(2) 主な項目でみる業況	12

【Ⅰ】 調 査 要 領

1. 調 査 対 象

- (1) 対 象 地 区 11商工会
 (2) 対 象 企 業 数 163企業
 (3) 回 答 企 業 数 163企業

2. 調査対象期間

第1四半期 平成24年4月～6月期
 調査時点 平成24年6月1日

3. 調 査 方 法

県下の調査対象企業を11商工会の経営指導員が訪問面接調査

4. 調査対象企業（モニター企業）の商工会別、業種内訳

商工会名	製 造 業	建 設 業	小 売 業	サービス業	計
都 留 市	3	2	4	6	15
韭 崎 市	3	2	4	5	14
南アルプス市	3	2	4	6	15
北 杜 市	4	2	5	4	15
笛 吹 市	3	2	4	5	14
上 野 原 市	3	3	4	5	15
甲 州 市	3	3	4	5	15
中 央 市	4	2	6	3	15
身 延 町	4	2	5	4	15
富 士 川 町	3	2	4	6	15
河 口 湖	4	2	6	3	15
計	37	24	50	52	163

5. そ の 他

①本報告書のD Iとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について前年同期と比較して、増加（上昇、好転、長期化等）とする企業割合と、逆に減少（低下、悪化、短期化等）とする企業割合の差を示すものである。

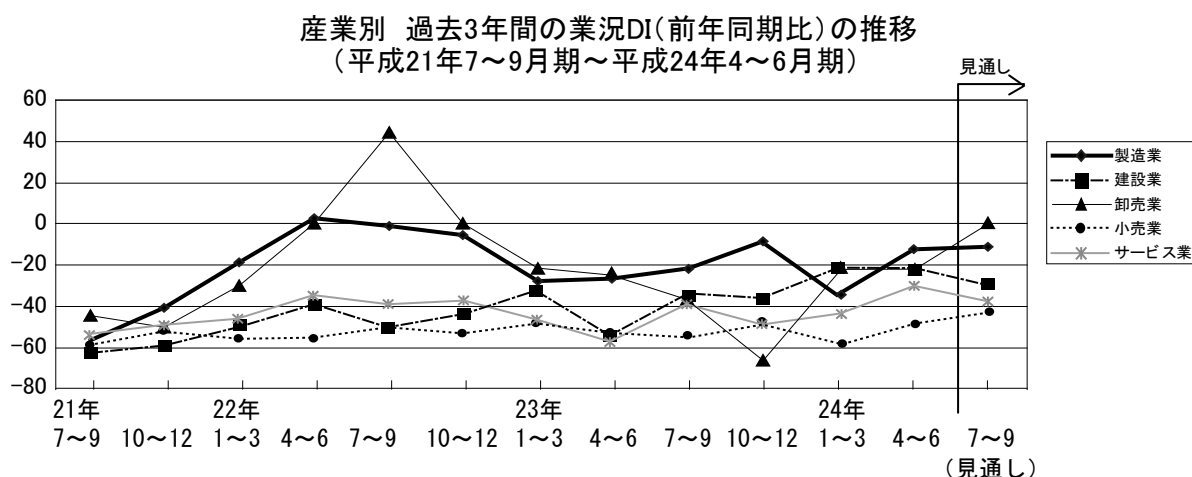
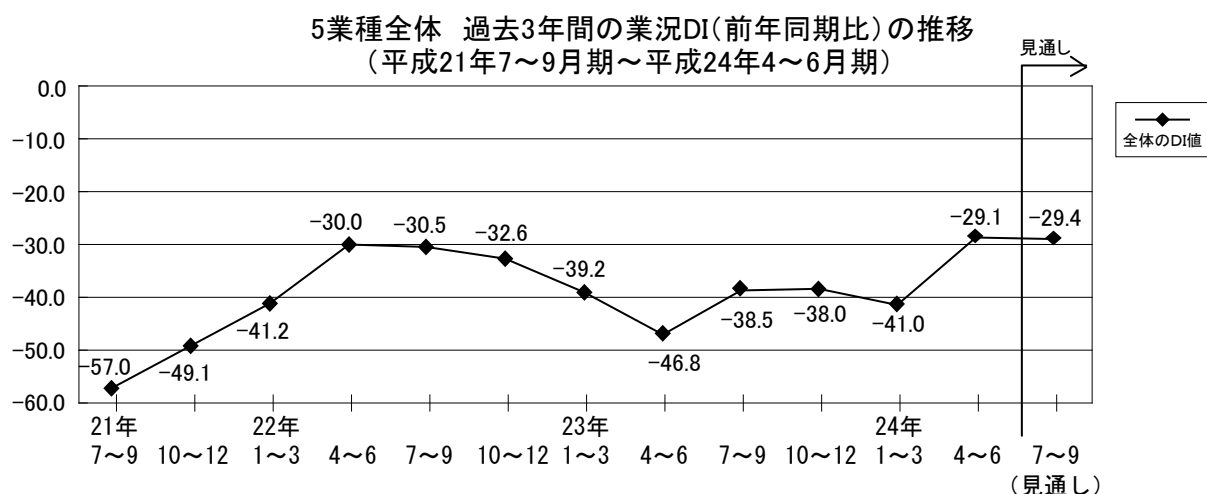
②次頁【Ⅱ】1. 産業全体の業況概観・・・については、本県商工会地区の企業ばかりでなく本県全体の被調査企業（卸売業を含む）282サンプルによるものである。

【Ⅱ】 景 況

1. 産業全体の業況概観

本県5業種の業況概観について、調査対象282企業のデータに基づいて産業別の業況DIを示す。まず下記の上図は、過去3年間の5業種全体の業況判断DIを表したものである。今期業況DIは前期マイナス41.0からかなりの改善をみせマイナス29.1となった。この3年間で最も良いDIである。来期の見通しは今期とほぼ同じのマイナス29.4である。

下図は今期の景況感を前年同期と比較して、過去3年間の推移を本県製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業5業種別に示したものである。製造業は、前期マイナス34.7からマイナス12.2と22.5ポイントの大幅な改善であった。2期前の水準に近いDIである。来期の見通しについては、さらに僅かな改善を示してのマイナス11.1である。建設業は、前期マイナス21.0からほぼ横ばいのマイナス23.7であった。来期の見通しは、6.0ポイント悪化のマイナス29.7である。卸売業は、前期マイナス22.3とほぼ同じマイナス22.2であった。来期の見通しについては、0.1であり、22.1ポイントの大幅改善の見通しである。小売業は、前期マイナス58.0から10ポイント近く改善のマイナス48.7であった。来期の見通しは、さらに改善しマイナス42.3である。最後にサービス業であるが、前期マイナス43.9から10ポイント以上の改善のマイナス30.1となった。来期の見通しについては、逆戻りしてマイナス37.5である。今期は、製造業、小売業、サービス業の3業種が改善し、卸売業が変わらず建設業が悪化した。



【注記】 上記、産業全体の業況概観については、商工会調査対象163企業に甲府・富士吉田地域からの119企業を含めた282サンプルを使用しております。

卸売業については、中小企業基盤整備機構調査によるデータのみを使用しております。

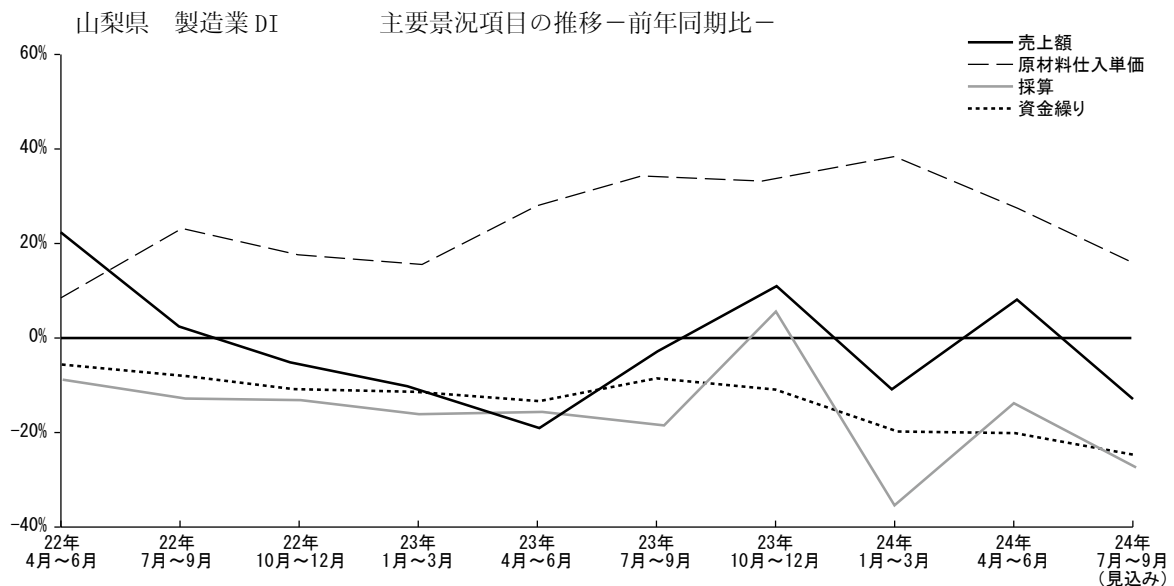
次ページからの産業別景況DIについては、商工会地区企業のサンプル分析に基づくものです。

2. 製造業の動向

1. 景況概観

下図は、製造業の「売上額」「原材料仕入単価」「採算」「資金繰り」の推移状況を表わしたものである。売上額D Iについては、前期マイナス10.9であったが今期は20ポイント近くの改善でプラス8.2となった。来期の見通しについては、再び水面下に沈みマイナス13.5である。

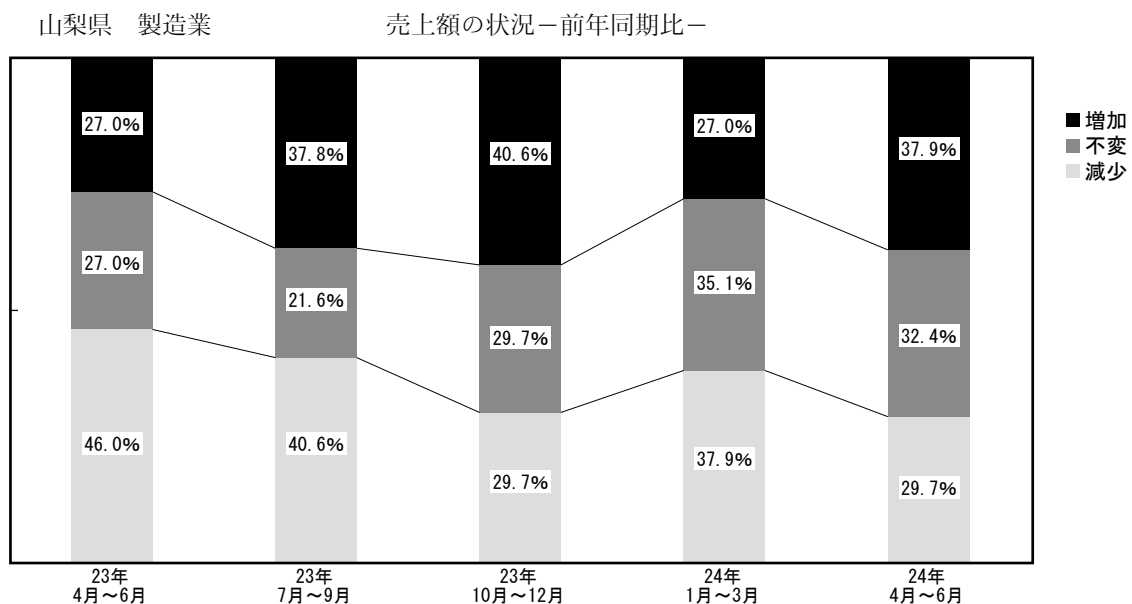
原料仕入単価D Iは、前期38.7から約10ポイント低下し28.1である。来期の見通しについては、さらに好転し15.6と落ち着く。採算D Iは、前期マイナス35.1と厳しい状況だったが、21.6ポイント改善しマイナス13.5となった。来期の見通しについては、再び悪化し前期の見通しと同様のマイナス27.0である。資金繰りD Iは、前期マイナス20.0と誤差範囲のマイナス19.5であった。来期の見通しは、5.5ポイント悪化のマイナス25.0である。



2. 主な項目で見る業況

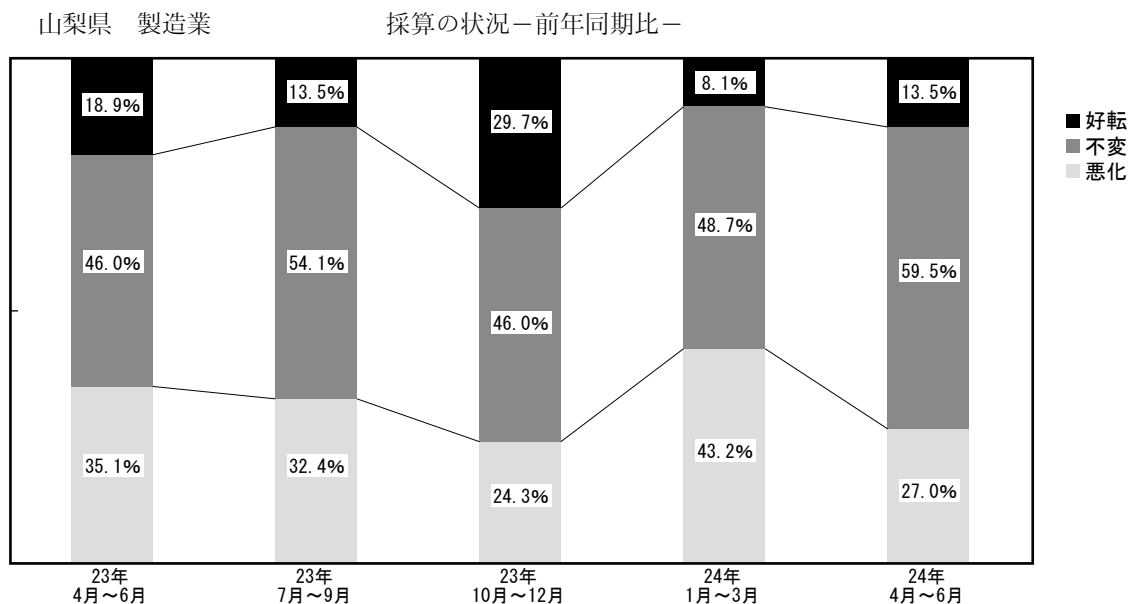
(1) 売上額

下図は、過去1年間の「売上額」の前年同期比で見た増減状況の推移を示したものである。ここでは、前記した当期の売上額D I プラス8.2となった回答の中身を見てみよう。「増加」と答えた企業の割合は前期10社の27.0%から4社増の37.9%であった。「不変」は前期13社の35.1%から1社減の32.4%、「減少」は前期14社の37.9%から3社減の29.7%となった。



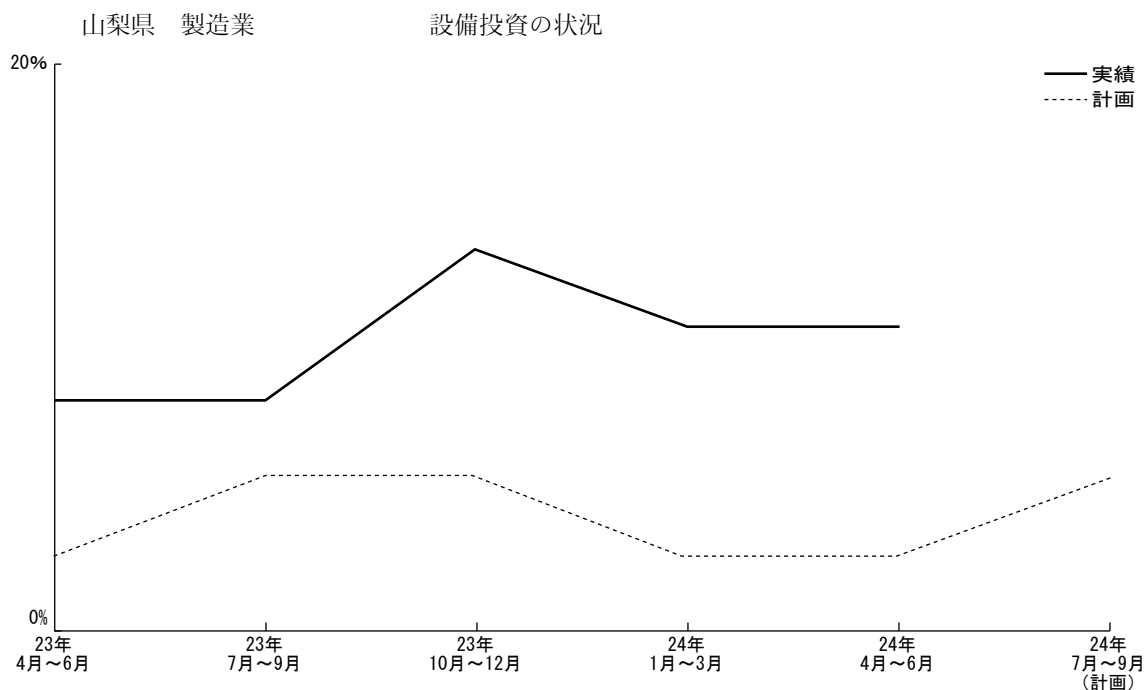
(2) 採 算

本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。今期の採算D I マイナス 13.5 についても、その詳細を見てみよう。「好転」が前期 3 社の 8.1% から 5 社に増え 13.5% に、「不変」は前期 18 社の 48.7% から 4 社増えて 59.5%、「悪化」は前期 16 社の 43.2% から 10 社に減り 27.0% となった。売上額D I の改善に伴い採算D I も改善した。その要因は、悪化と答えた企業数が 6 社減ったことである。



(3) 設備投資

下図は、過去 1 年間余りの「設備投資」の状況を示したものである。前期には設備投資を行った企業は 4 社であったが、今期も同様に 4 社が実施した。その設備投資内容は、「生産設備」と「OA 機器」が 2 件ずつであり、「土地」「工場建物」「付帯施設」が 1 件ずつあった。大型の投資が行われたことは、売上額等D I に見られるように景況感の明るさを示すものである。来期において、計画を予定している企業は 2 社に減る。設備投資の内容は「土地」「工場建物」「生産設備」「付帯施設」が 1 件ずつである。だが、今期と同様の大型投資が計画されている。

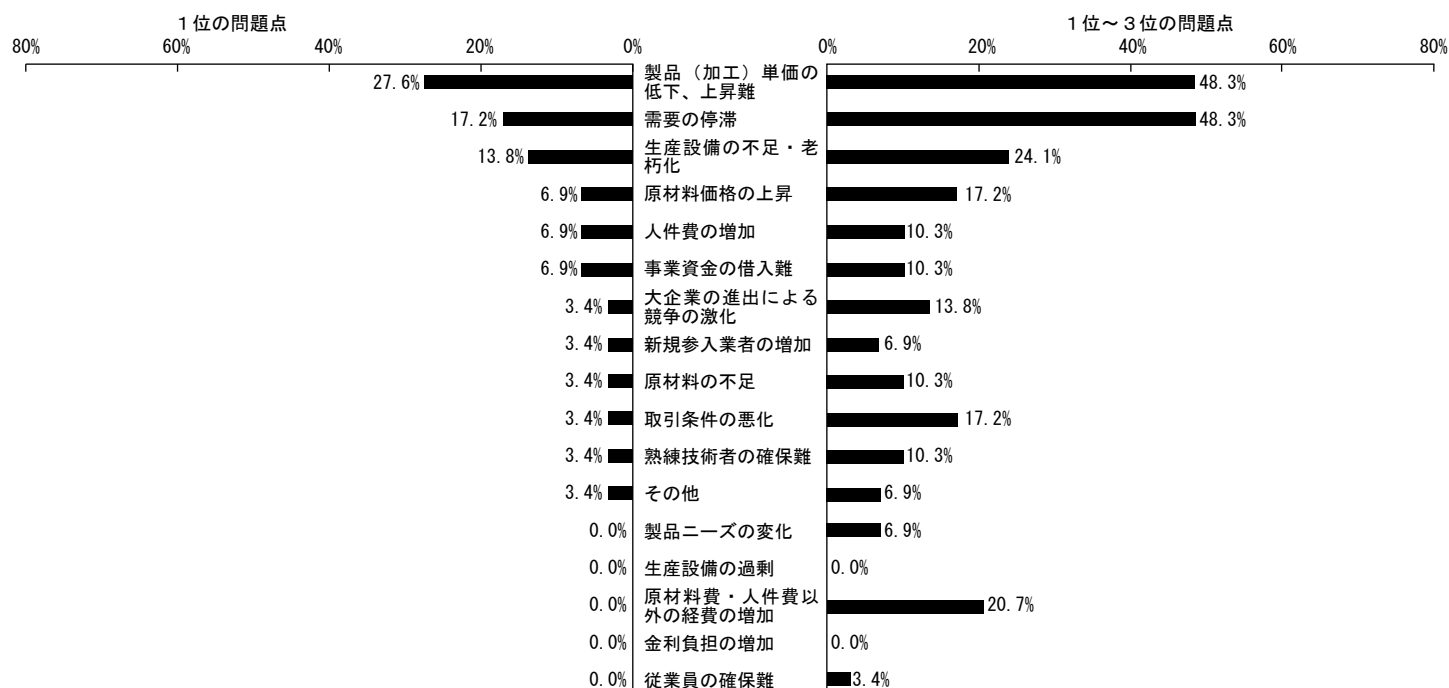


(4) 経営上の問題点

製造業における「経営上の問題点」は、下図のとおりである。まず最優先事項の問題点である「一位」に挙げたものから見ていくと、前期最も多かった「需要の停滞」の13社28.1%に代わって、今期は「製品（加工）単価の低下、上昇難」がトップで、8社が挙げ27.6%であった。次いで「需要の停滞」で5社の17.2%、「生産設備の不足・老朽化」が4社の13.8%であった。

次に「一位～三位」を見ると最も多い答えは、「需要の停滞」と「製品（加工）単価の低下、上昇難」で、それぞれ14社が挙げ48.3%であった。「需要の停滞」については、前期19社であったが今期は5社減である。続いて「生産設備の不足・老朽化」を7社が挙げ24.1%、「原材料費・人件費以外の経費の増加」が6社の20.7%、「原材料価格の上昇」と「取引条件の悪化」が各5社の17.2%となっている。

山梨県 製造業 経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



(5) 回答企業の内訳

業種別

業 種	企業数	構成比(%)
食料品製造業	8	21.6
印刷・同関連業	3	8.1
化学工業	1	2.7
プラスチック製品製造業	5	13.5
窯業・土石製品製造業	2	5.4
金属製品製造業	1	2.7
一般機械器具製造業	7	18.9
電気機械器具製造業	2	5.4
輸送用機械器具製造業	3	8.1
その他製造業	5	13.5
合 計	37	100.0

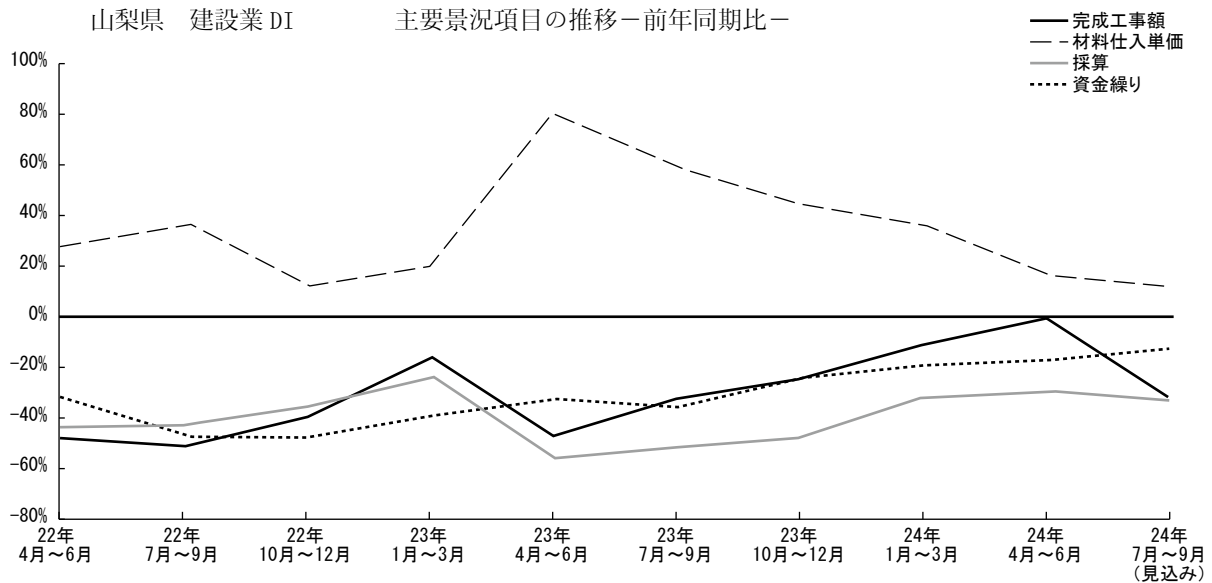
従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常 雇	い	企業数	構成比(%)
2人以下	18	48.6	13	35.1
3人～5人以下	9	24.3	10	27.0
6人～10人以下	4	10.8	6	16.2
11人～20人以下	3	8.1	2	5.4
21人～50人以下	3	8.1	6	16.2
合 計	37	100.0	37	100.0

3. 建設業の動向

1. 景況概観

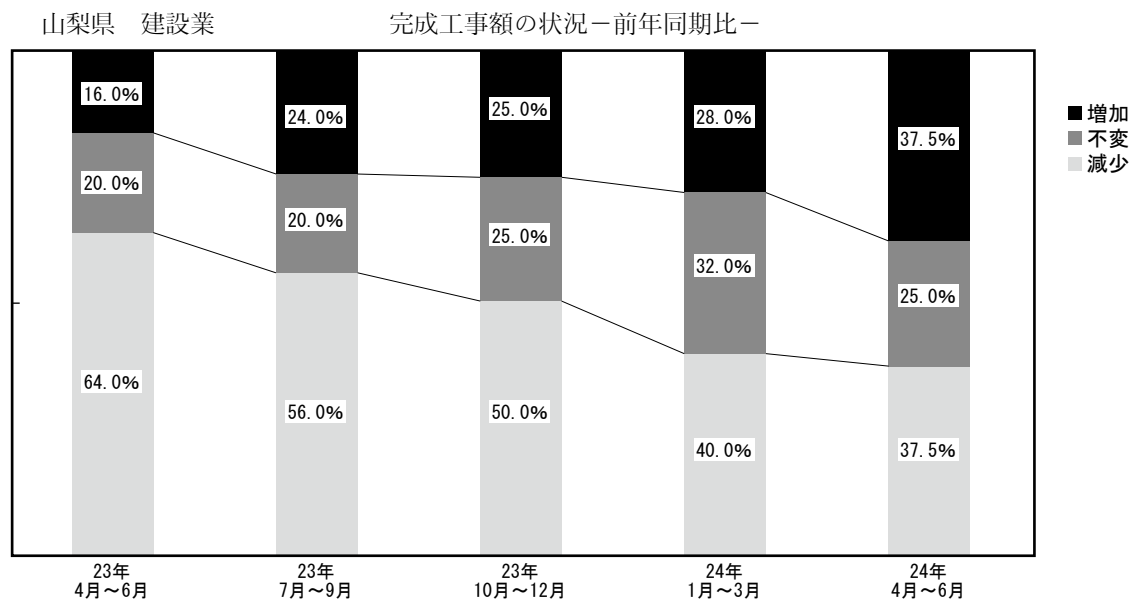
完成工事額D I は前期マイナス 12.0 であったが、今期はイーブンの 0.0 となった。下図にみられるように、久しくマイナスが続いていたので明るい数値である。来期の見通しについては、またまた悪化し、そして大きな低下のマイナス 33.4 である。材料仕入単価D I は、前期 36.0 から 16.6 へと低下し、一段と改善が進んだ。来期の見通しについても改善傾向が続き 12.5 である。採算D I についても、前期マイナス 32.0 からマイナス 29.2 と僅かであるが上向きである。来期の見通しは、マイナス 33.3 と逆戻りする。資金繰りD I も、前期マイナス 20.0 から 3.3 ポイントと僅少の改善のマイナス 16.7 であった。来期の見通しは、さらに改善しマイナス 12.5 である。



2. 主な項目で見る業況

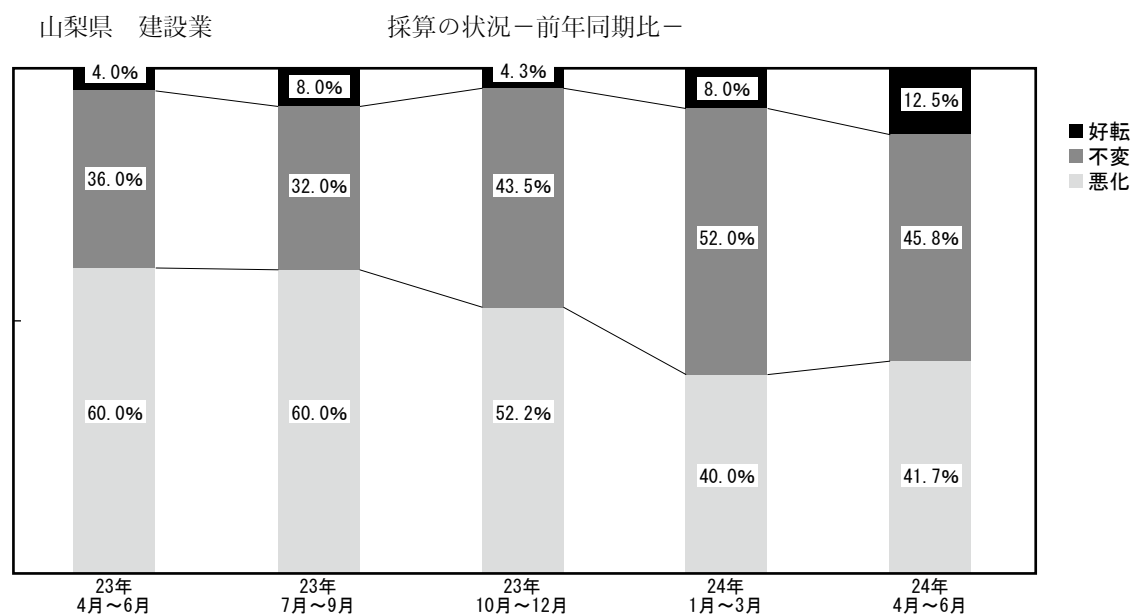
(1) 完成工事額

過去 1 年余の「完成工事額」の状況の推移を表わしたものが下図である。今期完成工事額D I の 0.0 の内訳をみると、「増加」が前期 7 社の 28.0% から 2 社増の 37.5% になった。「不変」は同じく前期 8 社の 32.0% から 2 社減の 25.0%、「減少」は前期 10 社の 40% から 1 社減の 37.5% であった。ちなみに、今期の受注（新規契約工事）額についてみると、前期D I はマイナス 40.0 であったが今期はマイナス 12.5 へ 27.5 ポイントの改善を見せた。来期の見通しについては、再びの悪化で完成工事額D I と同じマイナス 33.4 である。



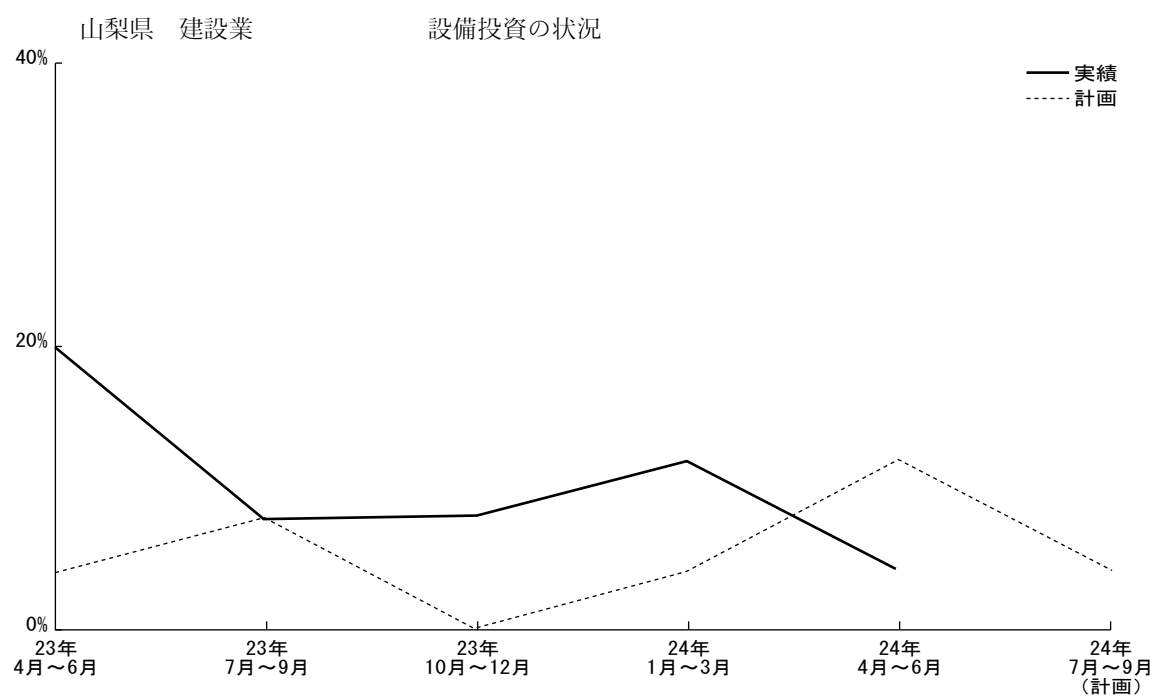
(2) 採 算

「採算」状況の詳細を見ると下図のようになる。今期採算D I マイナス 29.2 の内訳は、「好転」が前期 2 社の 8.0%から 1 社増の 12.5%、「不変」は 13 社の 52.0%から 2 社減の 45.8%に、「悪化」は前期 10 社の 40.0%と変わらず 41.7%（前期と回答企業数が違うためパーセンテージが違う）となった。



(3) 設備投資

設備投資を実施した企業は、前期 3 社であったが今期は 1 社のみであった。前期における今期の計画見通しは 3 社であった。今期の内訳は「車両運搬具」が 1 件と極めて低調であった。来期の計画についても、今期と同数の 1 社である。内訳も、今期と同様の「車両運搬具」である。製造業と比べ投資に対する積極性が見られず、慎重な経営姿勢が垣間見られる。

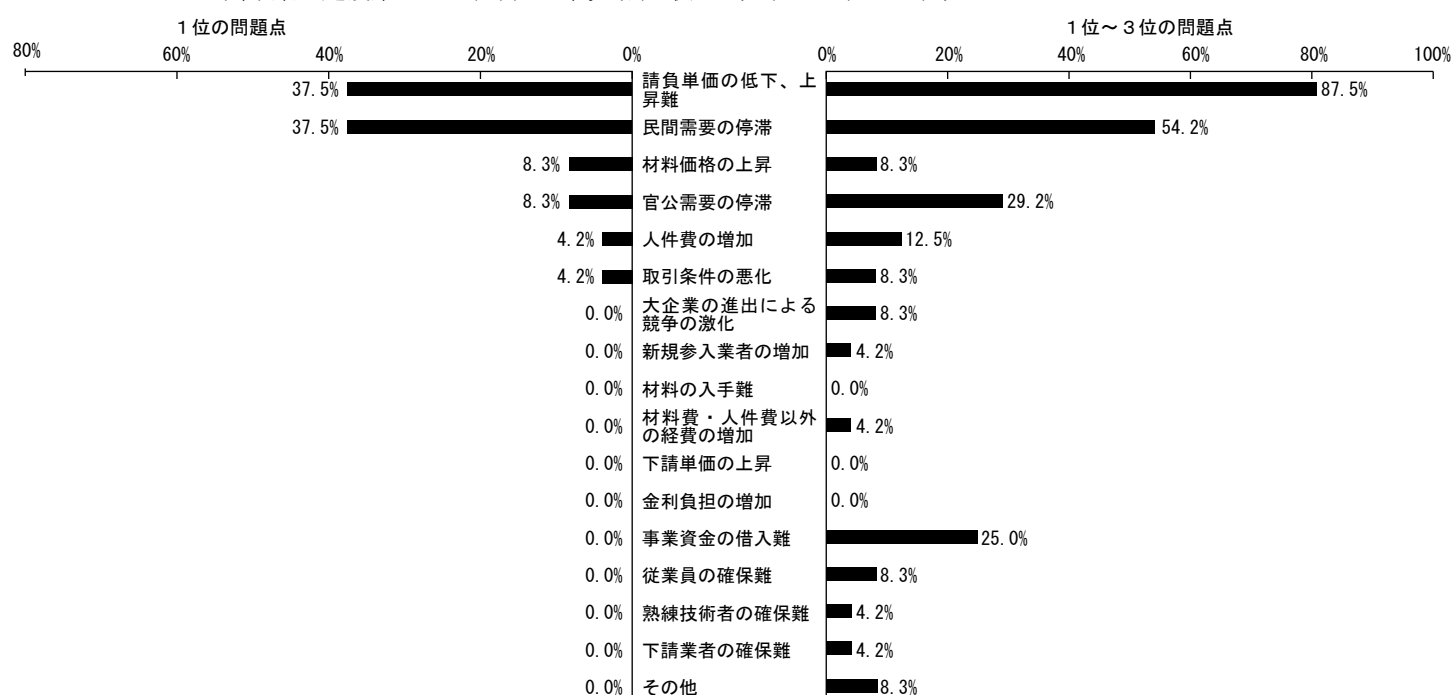


(4) 経営上の問題点

まず、「一位」に挙げたものから見ていくと、最も多い答えは今期も相変わらず「民間需要の停滞」で、前期8社32%から1社増えて37.5%であった。前期に2番目であった「請負単価の低下、上昇難」が5社の20.0%から、今期は9社の37.5%でトップに並んだ。その他の答えは、2社以下が挙げるのに止まった。今期の回答の特徴は、前記の2つの問題点に集中している。

次に「一位～三位」をみると、前期は「民間需要の停滞」がトップで15社が挙げ60.0%であったが、今期は13社の54.2%になり2番目となった。当回答に代わりトップは、「請負単価の低下、上昇難」で前期14社の56.0%から21社に増えて87.5%とダントツに多かった。3番目は、前期と同じ「官公需要の停滞」で前期には12社が挙げたが、今期は7社の29.2%と少なくなった。続いて、「事業資金の借入難」で6社25.0%が答えている。その他の答えは、3社以下が挙げているに過ぎない。今期において目につくものは、「事業資金の借入難」という金融面の問題が指摘されたことである。

山梨県 建設業 経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



(5) 回答企業の内訳

業種別

業 種	企業数	構成比(%)
総合工事業	17	70.8
職別工事業	4	16.7
設備工事業	3	12.5
合 計	24	100.0

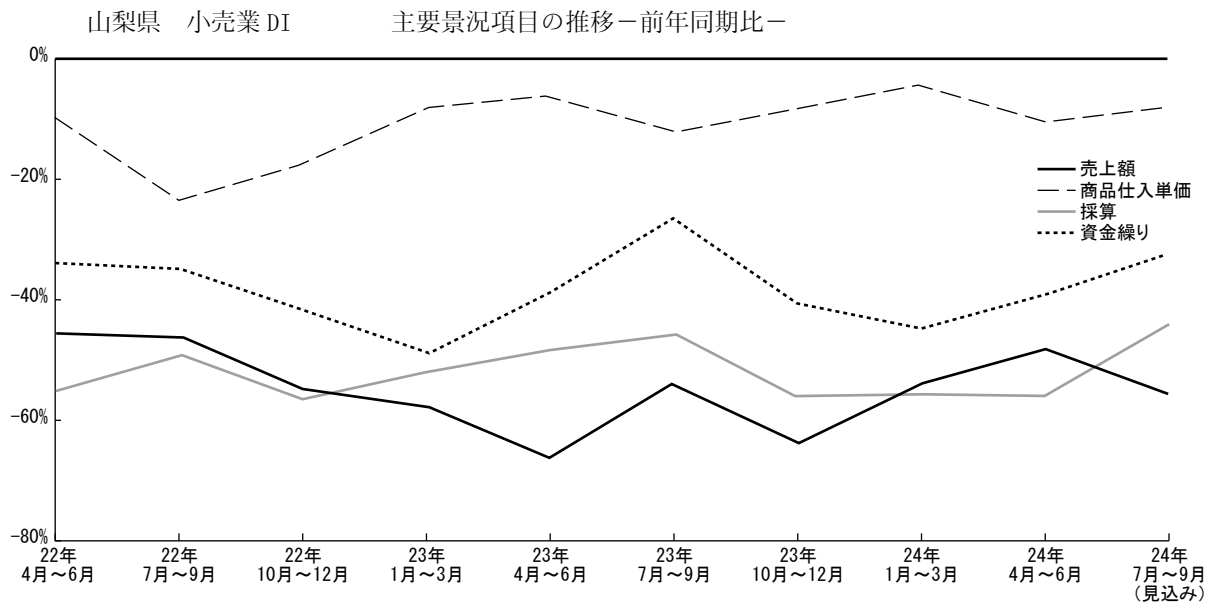
従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常 雇	い	企業数	構成比(%)
2人以下	7	29.2	5	20.8
3人～5人以下	7	29.2	8	33.3
6人～10人以下	3	12.5	4	16.7
11人～20人以下	5	20.8	5	20.8
21人～50人以下	2	8.3	2	8.3
合 計	24	100.0	24	100.0

4. 小 売 業 の 動 向

1. 景 況 概 観

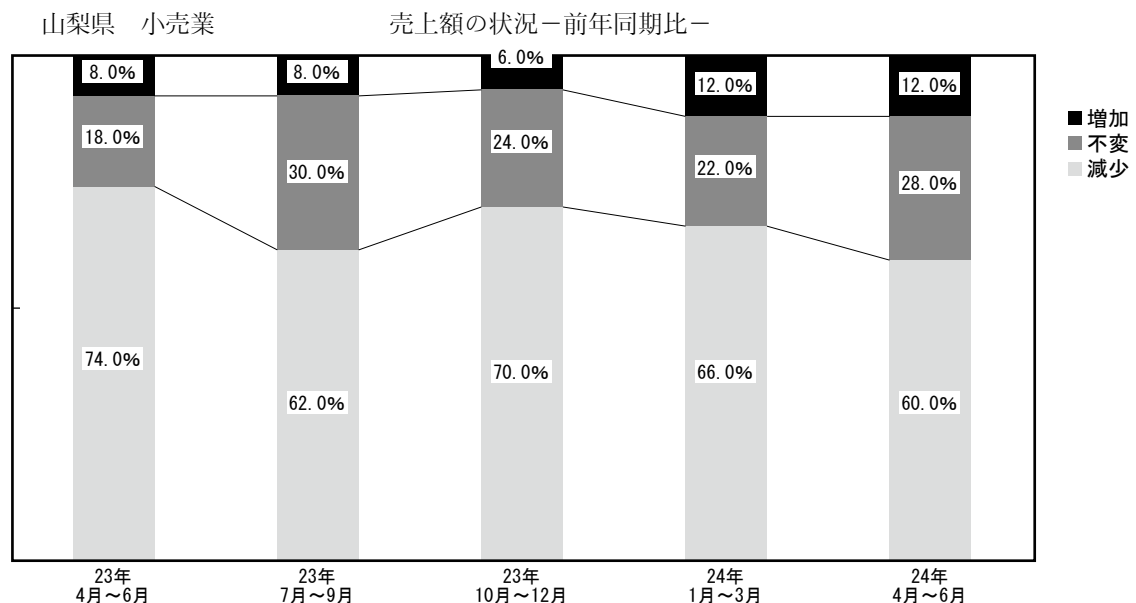
「売上額」D I は前期マイナス 54.0 であったが、今期は 6.0 ポイント改善のマイナス 48.0 になった。来期の見通しについては、前期とほぼ変わらないマイナス 56.0 である。低位で一進一退を繰り返しているようだ。商品仕入単価D I は、前期マイナス 4.0 からマイナス 10.0 へ低下した。来期の見通しは、ほぼ横ばいのマイナス 8.0 である。採算D I は、3 期続けたのマイナス 56.0 である。来期の見通しについては、マイナス 44.0 と期待含みのD I である。資金繰りD I は、前期マイナス 44.9 から 6.1 ポイントの改善でマイナス 38.8 であった。来期の見通しについては、さらに今期と同様の上昇値で改善されマイナス 32.6 である。



2. 主な項目で見る業況

(1) 売上額

下図は、ここ 1 年間余りの「売上額」状況の推移を示したものであるが、今期の売上額D I マイナス 48.0 の中身を分析してみると次のとおりである。「増加」と答えた企業は、前期 6 社 12.0%と変わらない。「不変」企業は、前期 11 社の 22.0%から 3 社増の 28.0%になった。「減少」企業は 33 社の 66.0%から 3 社減り 60.0%であった。

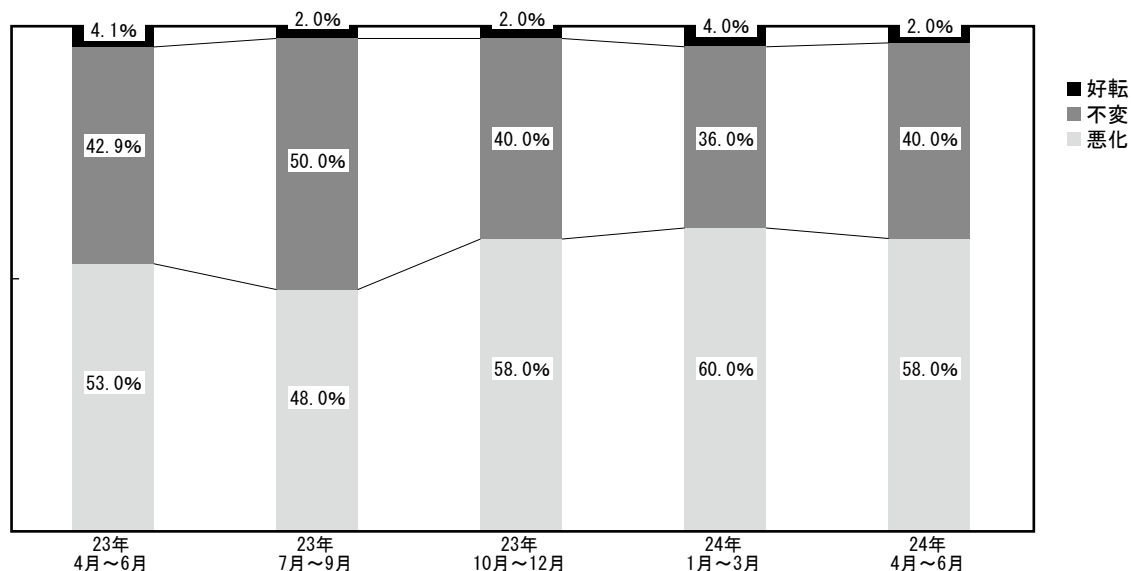


(2) 採 算

下図も、この1年間余りの「採算」状況の推移を示したものである。今期の採算D I マイナス 56.0 の内訳をみると、前々期と比率は全く変わらない。「好転」が前期2社から1減の2.0%、「不変」は前期18社から2社増えての40.0%、「悪化」は前期30社から1社減の58.0%にわずかに変化した。

山梨県 小売業

採算の状況－前年同期比－

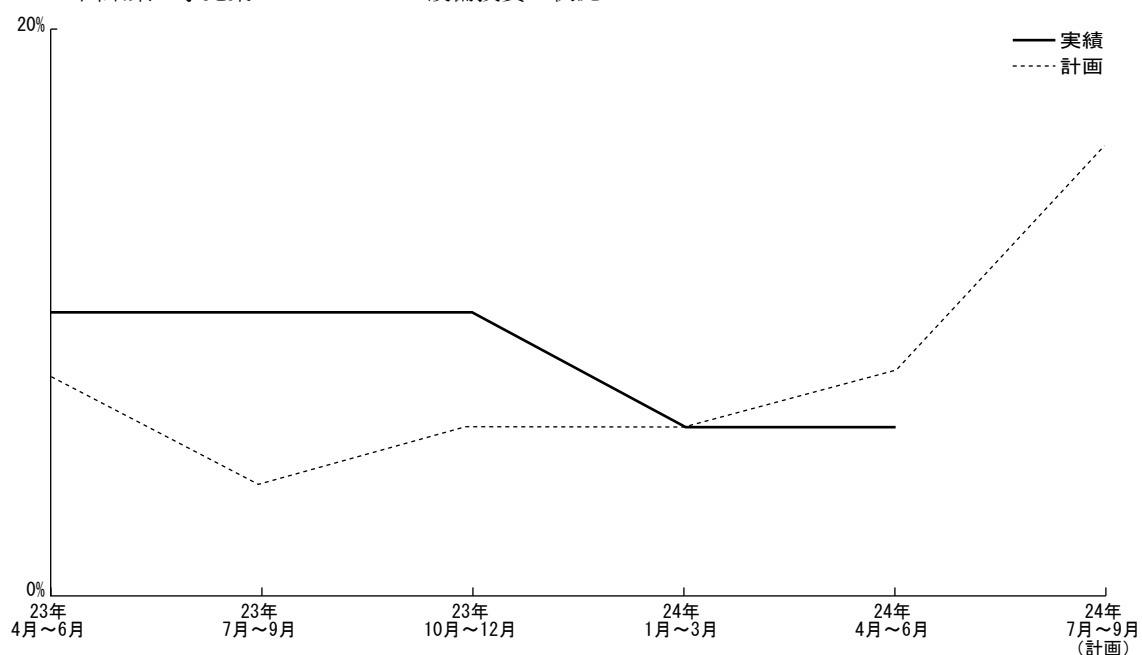


(3) 設備投資

小売業の今期における「設備投資」状況をみると、前期と同じ3社が実施した。その内容は「店舗」「付帯施設」「OA機器」「その他」が1件ずつであった。来期に設備投資を計画している企業は、大幅の増加で8社が予定している。その内訳は「販売設備」が4件、「車両」と「その他」が各2件、「店舗」と「付帯施設」がそれぞれ1件ずつである。小売業では、久々の活発な設備投資の計画である。

山梨県 小売業

設備投資の状況

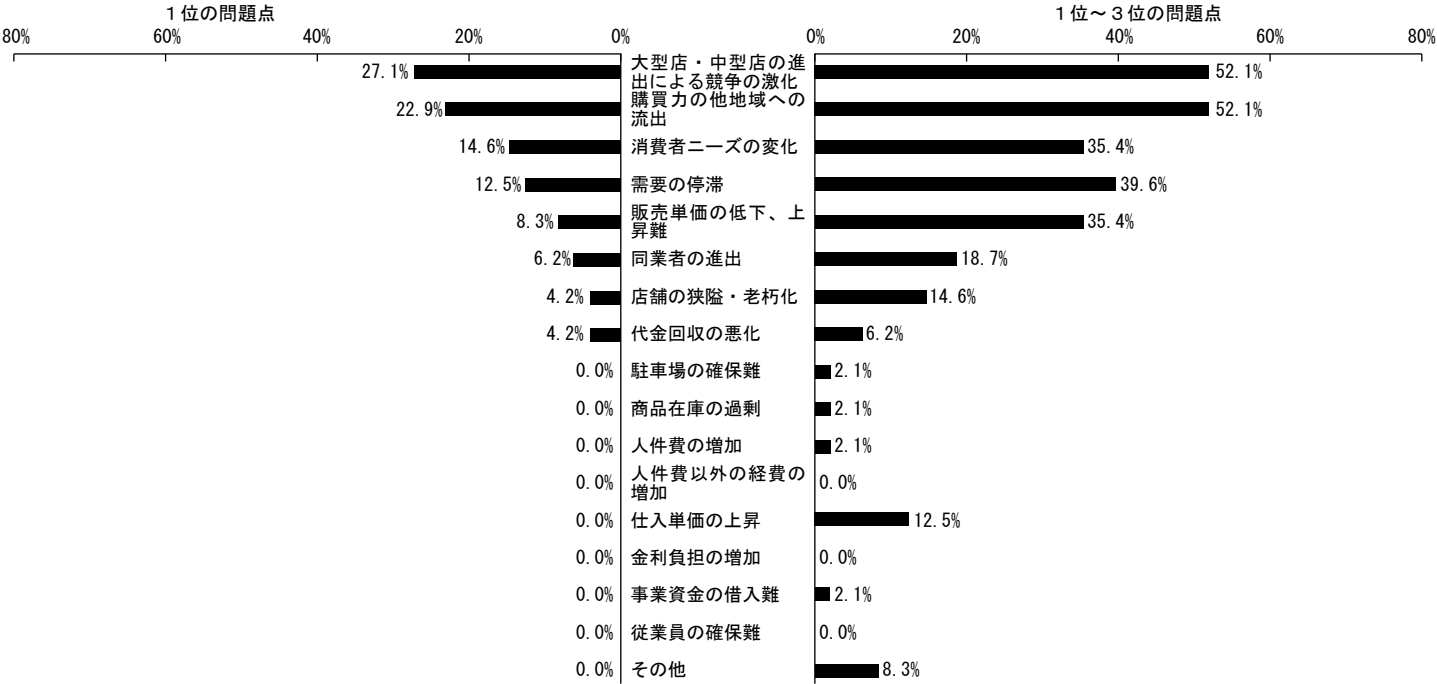


(4) 経営上の問題点

「一位」に挙げてもらったものから見ていくと、「大型店・中型店の進出による競争の激化」が3期振りに首位に返り咲き、前期11社の22.4%から2社増えて27.1%であった。2番目は「購買力の他地域への流出」で前期9社の18.4%から同じく2社増の22.9%である。続いて「消費者ニーズの変化」で、前期は4社が挙げるに過ぎなかったが、7社に増えて14.6%であった。4番目は、前期第1位の「需要の停滞」で前期14社の28.6%であったが、今期は6社の12.5%と急落した。あとの回答は、4社以下の企業が答えるに止まった。

次に「一～三位」に挙げた答えをみると、こちらも「大型店・中型店の進出による競争の激化」がトップで、前期28社から3社減って52.1%であった。同じくトップは「購買力の他地域への流出」で2期続けて「大型店・中型店の進出による競争の激化」と足並みを揃えている。続いて「需要の停滞」で、前期20社が挙げ40.8%であったが、1社少なくなり39.6%であった。「消費者ニーズの変化」と「販売単価の低下、上昇難」がそれぞれ17社の35.4%と続く。「消費者ニーズの変化」は前期と比べ2社減り、「販売単価の低下、上昇難」は5社増えている。その他の回答は9社以下である。

山梨県 小売業 経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



(5) 回答企業の内訳

業種別

業 種	企業数	構成比(%)
織物・衣服・身の回り品小売業	10	20.0
飲食物品小売業	13	26.0
自動車・自転車小売業	4	8.0
家具・建具・じゅう器小売業	7	14.0
その他小売業	16	32.0
合 計	50	100.0

売場面積別

売 場 面 積	企業数	構成比(%)
50㎡未満	24	48.0
50㎡～100㎡未満	19	38.0
100㎡～200㎡未満	5	10.0
200㎡～500㎡未満	1	2.0
500㎡～1000㎡未満	1	2.0
合 計	50	100.0

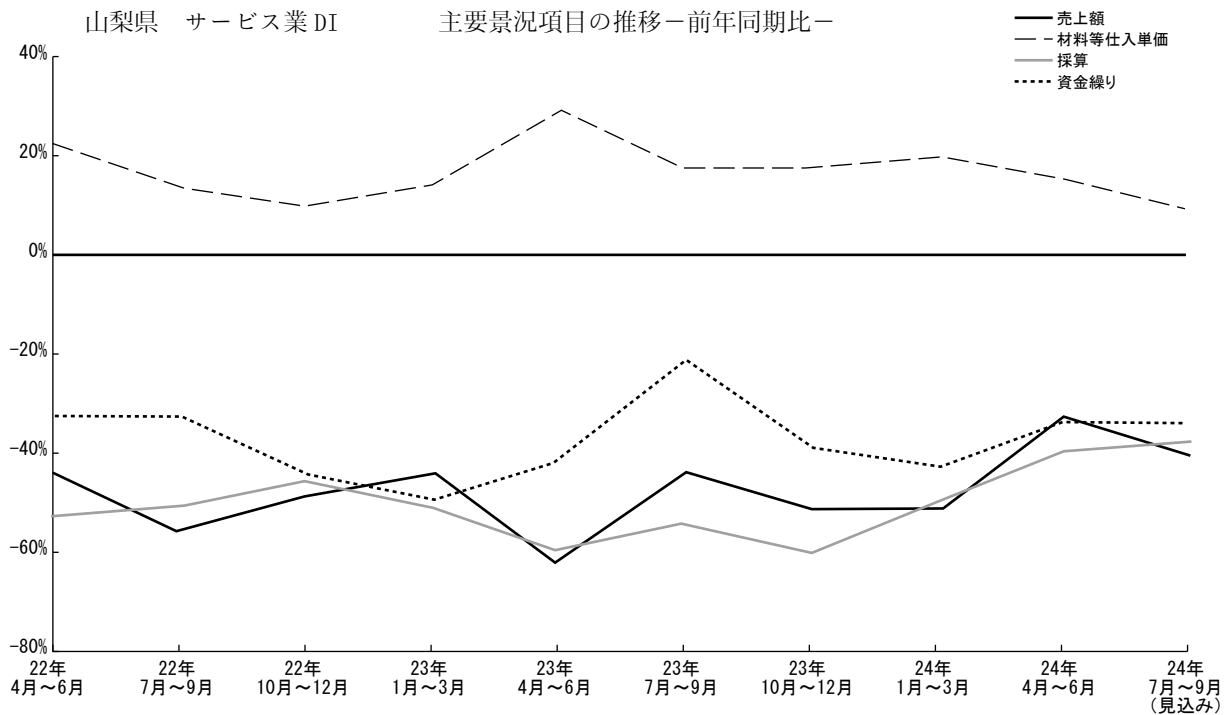
従業員規模別

従業員数	常 雇 い		臨時等含む	
	企業数	構成比(%)	企業数	構成比(%)
2人以下	43	86.0	39	78.0
3人～5人以下	7	14.0	8	16.0
6人～10人以下	0	0.0	2	4.0
21人以上	0	0.0	1	2.0
合 計	50	100.0	50	100.0

5. サービス業の動向

1. 景況概観

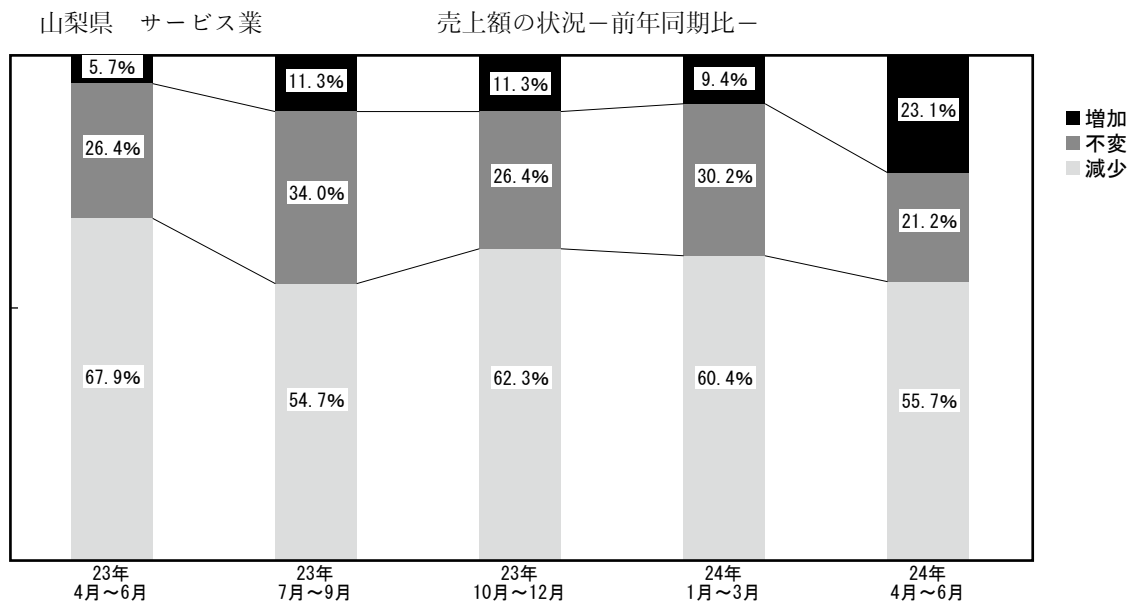
サービス業における売上額D I は、前期マイナス 51.0 であったが、今期はマイナス 32.6 とかなり改善した。来期の見通しについては、再び悪化のマイナス 40.4 である。材料等仕入単価D I は、前期 19.7 から 4.0 ポイント低下の 15.7 であった。来期の見通しは、さらに低下し 9.8 と落ち着く。採算D I は、前期マイナス 50.1 からと 10 ポイント余りの改善のマイナス 39.2 であった。来期の見通しについては、さらに僅かであるが改善を示しマイナス 37.2 である。資金繰りD I は、前期マイナス 42.3 から 8.3 ポイント改善しマイナス 34.0 になった。来期の見通しは今期と変わらない。



2. 主な項目で見る業況

(1) 売上額

この1年間余りの「売上額」の推移状況から、当期売上額D I マイナス 32.6 の分析をすると「増加」が前期 5 社の 9.4% から 12 社に増え 23.1%、「不変」は前期 16 社の 30.2% から 5 社減の 21.2% に、「減少」は前期 32 社の 60.4% から 3 社減って 55.7% になった。当期は売上額D I が「増加」した企業が非常に多かった。

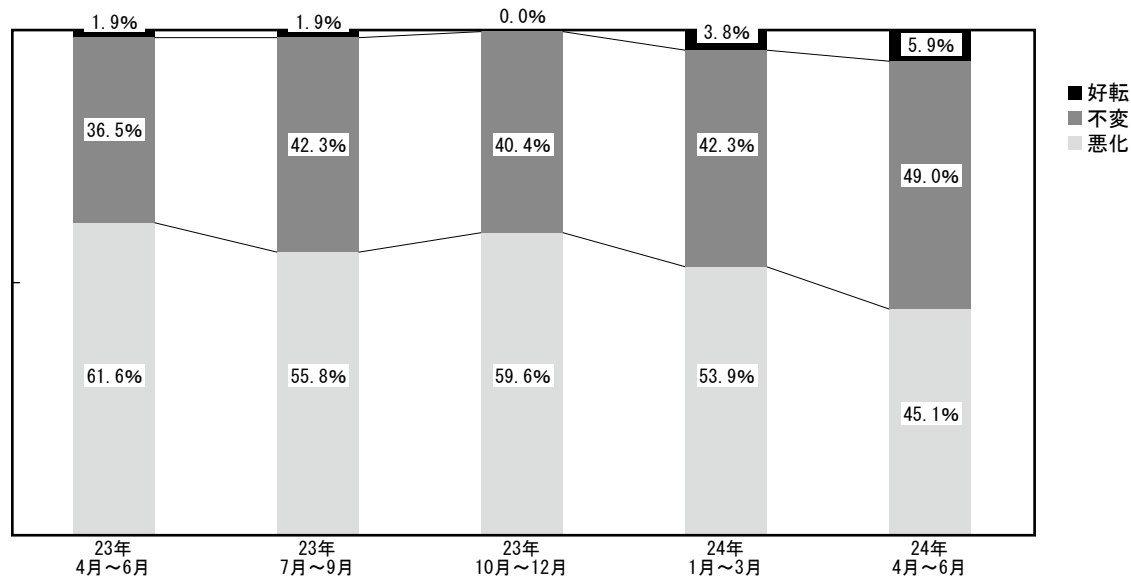


(2) 採 算

今期採算D I マイナス 39.2 の内訳は、「好転」が前期 2 社の 3.8% から 1 社増えて 5.9% となった。「不変」は前期 22 社の 42.3% から 25 社に増えて 49.0% に、「悪化」は前期 28 社の 53.9% から 5 社減の 45.1% となった。今期D I の改善は、「減少」と答えた企業数が減ったことによるものである。

山梨県 サービス業

採算の状況－前年同期比－

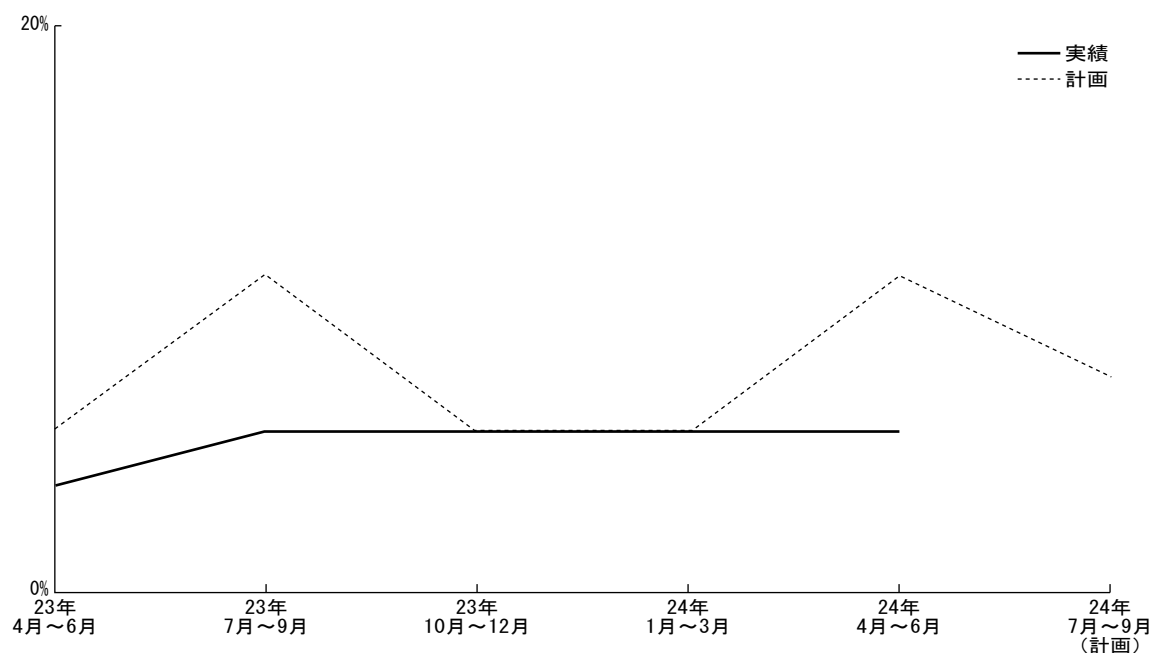


(3) 設備投資

サービス業で「設備投資」を行った企業は、4 期続けて 3 社となる。その内容は「車両・運搬具」が 2 件、「付帯施設」が 1 件であった。前期における今期の計画は 6 社であったが、実施した企業は半数に止まった。来期の計画については、1 社増えて 4 社が予定している。「建物」が 3 件、「土地」「サービス」「車両・運搬具」「OA 機器」が各 1 件予定されている。

山梨県 サービス業

設備投資の状況

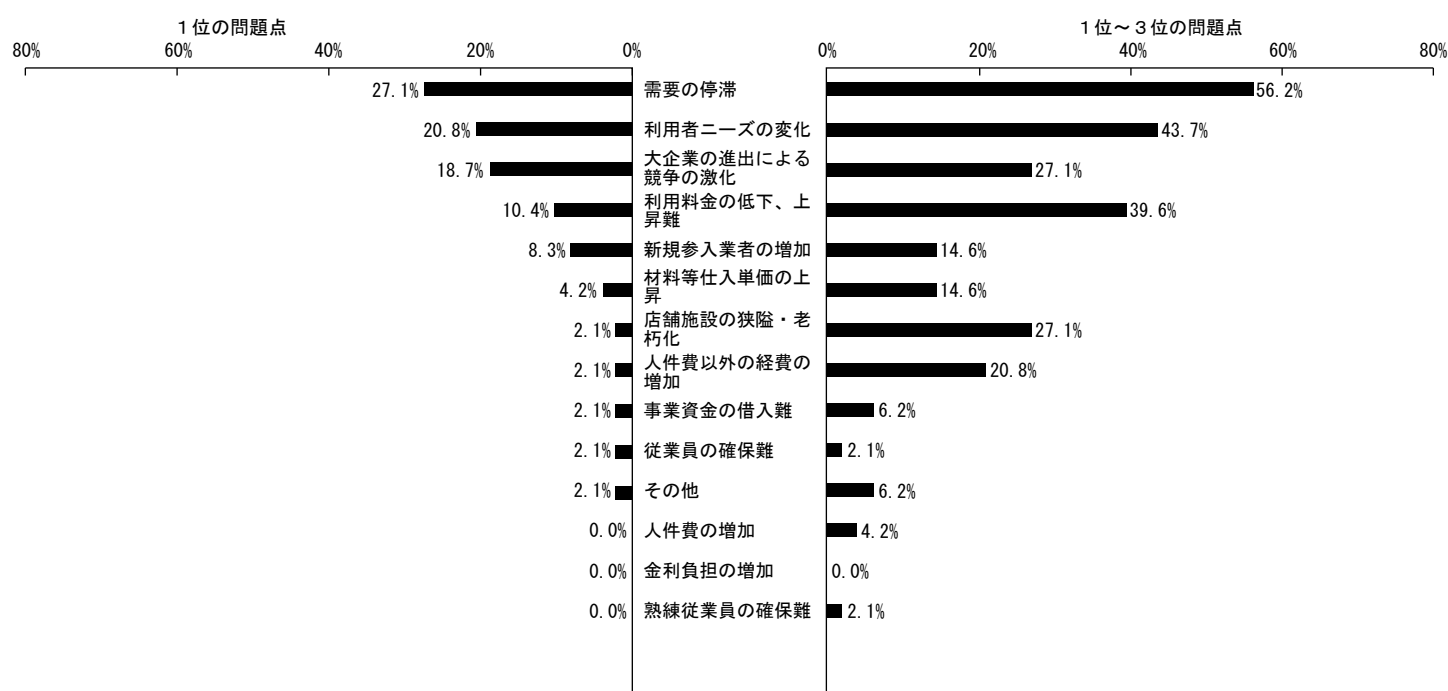


(4) 経営上の問題点

サービス業の「経営上の問題点」において、「一位」に挙げた項目の中で最も多い回答は、前期 19 社の 39.6%から今期 13 社の 27.1%にかなり減ったが、依然として「需要の停滞」であった。続いて前期と同じ「利用者ニーズの変化」で前期 13 社の 27.1%から、3 社減の 20.8%であった。3 番目は、1 社少ない 9 社が挙げた「大企業の進出による競争の激化」で 18.7%である。この回答は、前期 4 社の 8.3%から倍増した。その他に目につく答えは「利用料金の低下、上昇難」で 5 社の 10.4%、「新規参入業者の増加」の 4 社 8.3%である。

次に、「一～三位」に挙げたものを見ると、こちらも「需要の停滞」が最も多く、前期 30 社の 62.5%から 3 社減っての 56.2%であった。次に多いのは「利用者ニーズの変化」で、前期 27 社から 6 社減って 43.7%になった。続いて「利用料金の低下、上昇難」で前期 22 社の 45.8%から 19 社に減少して 39.6%であった。さらに「大企業の進出による競争の激化」と「店舗施設の狭隘・老朽化」が 13 社の 27.1%と並んでいる。その後には「人件費以外の経費の増加」10 社、「新規参入業者の増加」と「材料等仕入単価の上昇」が各 7 社と続く。「一位」および「一～三位」に挙げた上位の答えをみると、サービス業においては各項目で回答数の浮き沈みはあるが、前期と全く変わらない順位で推移してきている。

山梨県 サービス業 経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



(5) 回答企業の内訳

業種別

業 種	企業数	構成比(%)
一般飲食店	13	25.0
宿泊業	8	15.4
自動車整備業	7	13.5
洗濯・理美容業	18	34.6
その他のサービス業	6	11.5
合 計	52	100.0

従業員規模別

従業員数	雇 用 形 態		臨時等含む	
	常 雇	い	企業数	構成比(%)
2 人以下	41	78.8	36	69.2
3 人～5 人以下	5	9.6	9	17.3
6 人～10 人以下	5	9.6	5	9.6
11 人～20 人以下	1	1.9	1	1.9
21 人以上	0	0.0	1	1.9
合 計	52	100.0	52	100.0